

シラバス

リハビリテーション学科編

(21回生用)

藤田医科大学 保健衛生学部
FUJITA HEALTH UNIVERSITY SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

シラバス (Syllabus) の活用について

このシラバスでは、各学科の授業科目について、その概要、到達目標、学習内容・方法、評価の方法とオフィスアワー（学生が教員を訪問して質問できる曜日・時間帯など）、教材・テキスト・参考書、準備学習・履修上の注意点などが記載されています。学生諸君はこれをよく閲覧して効率的にまた主体的に学習する道標としてください。

シラバスの目的は学生のためだけでなく教員のためでもあり、授業計画の進捗状況と、設定された目標を学生が達成し、学習効果をあげているかを総括できます。学生と教員お互いのコミュニケーションのツールとして是非活用してください。

大学では、高等学校まで学生諸君が受けている受身の与えられる姿勢での学習ではなく、自分で問題点・重要点を探し、調べ、学び取っていく能動的な学習が求められます。逆に言えば大学教員は必要な学習情報が何かを示しますが、それを直接細かく情報伝達することを主目的とはせず、あくまで、学生諸君が効率的に将来有効な重要な情報や技術を会得することを支援することを目的とします。このシラバスを自己の学習の羅針盤に見立て効率よい学習に役立ててください。

では、保健衛生学部での 4 年間の学習で、将来の各医療職のエキスパートとして成長する、その基礎固めができるよう、充実した学生生活を送れるよう願っています。私達、教職員はそのための支援の向上を今後も図っていきます。

藤田医科大学 保健衛生学部長

保健衛生学部の教育理念・目標・ポリシー

1. 教育理念

保健衛生学部は、本学の建学理念である「独創一理」を踏まえ、人間の生命を尊重する倫理観と心豊かな幅広い人間性を培い、協調性と責任感を持って看護学、リハビリテーション学各分野の知識・技術の修得をもとに、課題探求能力を育成し、専門的素養のある人材として社会に貢献できる人材を育成する。

2. 教育目標

- 1) 人間の健康と生命を護る役割を自覚して知識や経験を身に付け、社会の変化や医療の進歩に適応できる人材を育成する。
- 2) 医療に関する知識、技術、思考力、判断力の修得をもとに、自らの課題探求、問題解決能力を育成する。
- 3) 医療に従事する者としての責任感と協調性を養い、チーム医療を実践できる人材を育成する。

3. 保健衛生学部の3ポリシー

3.1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

保健衛生学部は、本学の建学の理念および学部・学科が掲げる人材育成の目的に基づき、各学科で所定の課程を修め、以下に示す5つの能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

1) 自律力

人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を持ち、疾病予防、健康維持・増進、公衆衛生などの保健衛生に携わる医療人として自ら評価・判断して行動する能力を身につけている。

2) 協調力

対象者ならびに関係者と分け隔てなく、適切なコミュニケーションを図り、医療、保健

衛生に関わる専門職と連携・協働し、自身の役割や責任を担い行動する能力を身につけている。

3) 課題解決力

それぞれの専門分野で修得した基本的な知識を活用し、課題解決に創造性をもって持続的に取り組み、かつ国際的に広い視野を持ち科学的に探究する能力を身につけている。

4) 実践力

対象者を公平かつ多面的に理解し、臨床現場で必要となる基本的な臨床技能を、対象者に適確かつ安全に提供する能力を身につけている。

5) 地域・社会貢献力

対象者が住み慣れた地域での生活継続を可能にするため、先進医療から継ぎ目のない地域に根ざした医療、保健衛生を学修し、多様な社会に貢献する能力を身につけている。

3.2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健衛生学部は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの能力を身につけるために段階的・体系的な教育課程を編成する。また、以下に示す学修方法や学修成果の評価により、本学の建学の精神と教育理念を踏まえて、学びを進め、深めていく。

1. 教育課程編成

- 1) 看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の各種資格課程を設置し、専門的な学びに応え、保健・医療の質向上、コミュニケーション、接遇など医療従事者に必要な能力を養成する。
- 2) カリキュラムには「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」を設置し、各科目を系統的に連結させ、体系的かつ網羅的に保健衛生学分野を学修できるようにする。
- 3) 系統的・体系的なカリキュラムであることを示すための「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を作成し、学修過程の整合性を示す。
- 4) 講義、演習、実習ではアクティブ・ラーニングなど多様な学修形態を活用しつつ、個別指導の充実を目指した教育を行う。多様な学びの連携を重視し、少人数学修（SGL）、問題解決型学修（PBL）、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、リーダーシップ、主体性、協調性などを通じて、専門性を養成する。
- 5) オンラインによる授業資料配信やポータルサイトといった多様な情報通信技術（ICT）を日常的に利活用することで、適切にICTを利活用できる能力を養成する。
- 6) 臨地実習では、高度な最先端医療を実施する教育病院を多様な学びの場として学修し、

実践能力を養成する。

2. 学修方法・学修過程

- 1) 主体的な学びの能力を高めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を、初年次から推進する。
- 2) 学修成果可視化システム等により、自己の学修成果を把握することで、学修の目標と計画を立てて、達成と成長を実感できるようにする。
- 3) オフィスアワーや学生ポータルサイト等の ICT の利活用によって、教員と学生の双方向のコミュニケーションを密にすることで、学修成果を高める。

3. 学修成果の評価

- 1) 定期試験・レポート・実技試験等によって、学修成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学修成果は、講義・演習・実習科目および臨地実習を多様な学修評価方法を用いて単位を厳格に認定し、修得単位数から成績評価値 (GPA) を算出し、学士の質保証を担保する。
- 3) 学修成果の可視化および教育の質保証を図るために、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの各項目について「学修成果の評価 (アセスメントプラン)」を踏まえて達成度を示す。

3.3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

保健衛生学部は、看護学、リハビリテーション学の各分野で専門的な能力を発揮し、医療を通じて幅広く社会に貢献できる人材を育成してきました。さらに各分野の専門的な知識や技術を教育することはもとより、心豊かな人間性と幅広い教養を育み、強い信念をもって課題に取り組む能力と人間の生命を尊重する倫理観を備え、責任感と協調性をもって患者中心の専門職連携を実践できる「医療人」を育成したいと考えています。さらに、今後見込まれる社会構造の変革に対して柔軟に対応できる人材が必要と考え、地域医療・介護福祉の教育および研究を重要な新課題ととらえています。そこで、地域ケア実践指向の「藤田医科大学地域包括ケア人材育成教育プログラム」を立ち上げ、全国初の大学発信型の「住み慣れた地域での生活継続」を可能にする人材育成モデルを構築しています。このように、保健衛生学部はわが国の地域に根ざした医療、さらに保健・福祉へと幅広く貢献できる「医療人」の育成を目指す一方で、海外の医療系諸大学との人材交流を活発に進め、国際的な視野を持った「医療人」の育成を目指しています。

保健衛生学部は、本学の建学の理念に共感し、医療、保健衛生に誠実に携わることを望むもの

を広く受け入れる。

- 1) 医療、保健衛生およびその関係する分野に高い関心をもつもの
- 2) 心豊かな人間性と幅広い教養を育み、主体性をもって他者と協働しながら課題に取り組む志のあるもの
- 3) 大学で学ぶ専門的な知識や技術を活かして、組織や国内外の地域、社会に貢献する志のあるもの

入学試験は多様な素養を評価するため、複数の受験機会を提供する。

なお、性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位や身体能力は評価しない。

禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、
入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

学力の3要素について

学力の3要素は保健衛生学部アドミッションポリシー内、3) は「知識・技能」に、1) と2) は「思考力・判断力・表現力等」に相当する。求める能力の内「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」は2) に、「意欲・情熱」は1) に、「チーム医療・社会貢献への関心」は2) 3) に適合する。

保健衛生学部 各入学試験で求める能力（評価項目）

※主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）

選抜区分		試験項目	求める学生像				
			知識 技能	思考力 判断力 表現力等	※ 主体性 多様性 協働性	意欲 情熱	チーム医療 社会貢献 への関心
総合型選抜	全学科 心じた独創入学試験A (総合型選抜)	国際適性試験	○	○			
		アクティフレポート		○	○	○	
		調査書	○		○		
		志望理由書		○		○	○
		プレゼンテーション		○	○		
		面接		○	○	○	○
総合型選抜	全学科 心じた独創入学試験B (総合型選抜)	国際適性試験	○	○			
		科学適性試験	○	○			
		状況設定問題		○	○		
		調査書	○		○		
		志望理由書		○		○	○
学校推薦型選抜	全学科 推薦入学試験 一般公募制推薦 【専願】	小論文	○	○		○	
		面接		○	○	○	○
		調査書	○		○		
		推薦書	○	○	○		
		志望理由書		○		○	○
		活動実績表			○		
	JNCリテラクション学科 先進理学療法コース 先進作業療法コース 推薦入学試験 一般公募制推薦 【併願】	小論文	○	○		○	
		面接		○	○	○	○
		調査書	○		○		
		推薦書	○	○	○		
		志望理由書		○		○	○
外国人留学生選抜	看護学科 JNCリテラクション学科 先進理学療法コース 先進作業療法コース 推薦入学試験 指定校推薦	面接		○	○	○	○
		プレゼンテーション		○	○		
		調査書	○		○		
		推薦書（注）	○	○	○		
		志望理由書（注）		○		○	○
		活動実績表（注）			○		
社会人選抜	看護学科 特別入学試験 社会人自己推薦	面接		○	○	○	○
		プレゼンテーション		○	○		
		最終学歴の卒業証明書、成績証明書（注）	○		○		
		志望理由書（注）		○		○	○
		活動実績表（注）			○		
注）面接に活用し、評価の参考として使用							

4. アセスメント・ポリシー（学修成果の評価の方針）

藤田医科大学 医療科学部および保健衛生学部は、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関レベル（学部）、教育課程レベル（学科・専攻）、科目レベル（個々の授業）の3段階で学修成果を評価する方法を定めます。

1) 機関レベル

学生の志望進路（資格・免許を活かした専門領域への就職率および進学率等）から学修成果の達成状況を評価します。

2) 教育課程レベル

学部・学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況、卒業要件達成状況（単位取得状況・GPA）から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を評価します。また、学年ごとの単位取得率・成績分布の状況から、各学年全体の学修態度と学修傾向を評価し、1年次から4年次までの基礎から専門科目の個々の単位修得状況を学修成果として評価します。

3) 科目レベル

授業等科目のシラバスで提示された成績評価および学修目標に対する達成状況等の結果から、科目ごとの学修成果を評価します。

【評価指標】

レベル	入学前・入学直後	在学中	卒業時・卒業後
機関レベル (学部)	・各種入学試験 ・新入生アンケート	・休退学状況（休退学率） ・学生生活・学修生活実態調査（2年次と4年次） ・授業評価アンケート	・卒業率 ・学位授与率 ・就職率 ・進学率 ・学生の動向追跡調査分析 ・ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生の自己評価・教員評価・就職先施設による評価） ・卒業後アンケート
教育課程レベル (学科・専攻)	・各種入学試験	・GPA ・成績分布状況 ・進級率	・GPA ・資格・免許取得状況 ・単位取得状況 ・国家試験合格率、合格者数
科目レベル (個々の授業)	・入学後語学力確認テスト	・成績評価（テスト、ループリック） ・授業科目別到達度自己評価	

【データの収集と分析・改善】

I R 推進センター・教務委員会が上記データを収集し分析・検討を行います。分析結果は、全学教学運営委員会に報告し、各学科・部署にて継続的かつ効果的な教育の改善等に活用します。

リハビリテーション学科の2方針

1. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健衛生学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科先進理学療法コースおよび先進作業療法コースのディプロマ・ポリシーに示した5つの能力を身につけるために、本学科では段階的・体系的な教育課程を編成する。また、以下に示す学修方法・過程や学修成果の評価により、本学の建学精神と教育理念を踏まえて、学びを進め、深めていく。

1. 教育課程編成

- 1) 理学療法士・作業療法士の資格課程を設置し、専門的な学びの要求に応え、知識・技能、医療の質向上につながるコミュニケーション、接遇など専門家に必要な能力を養成する。
- 2) カリキュラムには「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」を設置し、各科目を系統的に連結させ、体系的かつ網羅的に学修できるようにする。
- 3) 系統的・体系的なカリキュラムであることを示すための「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を作成し、学修過程の整合性を示す。
- 4) 講義、演習、実習では理学療法士・作業療法士としての専門性を身につけるため、少人数学修（SGL）、問題解決型学修（PBL）、チーム基盤型学修（TBL）などのアクティブラーニングを活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、リーダーシップ、主体性、協調性などの観点から養成する。
- 5) オンラインによる授業資料配信やポータルサイトといった多様な情報通信技術（ICT）を日常的に用いることで、ICTを適切に利活用できる能力を養成する。
- 6) 臨床実習では高度な最先端医療を実施する教育病院や、地域に根ざした医療機関、福祉施設、地域包括ケア中核センターを多様な学びの場とし、理学療法士・作業療法士に必要な専門知識・技能を養成する。

2. 学修方法・学修過程

- 1) 初年次教育
1年次には、基礎分野の科目だけでなく、全学部合同でチームワークやコミュニケーションスキルを学ぶ大学独自のカリキュラムであるアセンブリ教育を行う。全学部学生と

教員が共に活動することを通して、専門職連携の基盤づくりを行う。基礎臨床見学実習では、臨床現場で理学療法士・作業療法士の働きを見学し、リハビリテーションにおける理学療法士・作業療法士の役割への理解の向上を図る。

2) 専門教育

教育課程は理学療法と作業療法の共通科目として基礎分野で科学的思考の基礎、専門基礎分野で人体の構造と機能および疾病と障害の成り立ちなどを学ぶ。その上で専門分野では、リハビリテーションに必要な高い専門性を得るために科目を学び、身体障害、発達障害、老年期などでリハビリテーションを必要とする対象者を理解する視点を獲得する。

また、臨床志向的なリハビリテーション教育/学習システム COSPIRE (the Clinical-Oriented System for Progression & Innovation of Rehabilitation Education) を導入し、臨床場面と直結した学修環境の中で、良質な知識、技能、態度の獲得を図る。

客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を導入し、標準的なリハビリテーションを模擬的に実施し、評価を受けることでスキルアップを図る。

3) 学生・学修支援

理学療法士・作業療法士国家資格取得にむけた学修のため、SGL による個別指導の体制を整えている。また、全学年を通して、学修成果可視化システム等により、自己の学修成果を把握することで、具体的な学修の目標と計画を立てて、達成と成長を実感できるようにする。

3. 学修成果の評価

- 1) 定期試験・レポート・実技試験等によって、学修成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学修成果は、講義・演習・実習科目および臨地実習を多様な学修評価方法を用いて単位を厳格に認定し、修得単位数から成績評価値 (GPA) を算出し、学士の質保証を担保する。
- 3) 学修成果の可視化および教育の質保証を図るために、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの各項目について「学修成果の評価 (アセスメントプラン)」を踏まえて達成度を示す。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

保健衛生学部のアドミッション・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科では以下のような学生を入学者として求める。

求める学生像

- 1) リハビリテーション専門職を志す明確な目的意識を有する人
- 2) 入学後の学修に必要な基礎学力を備え、リハビリテーション関連分野（身体障害、発達障害、老年期）に高い関心を有する人
- 3) 思いやりと誠実さをもって、他者に興味をもち理解する姿勢を有する人
- 4) 自身の行動に主体性と責任をもち、他者と協働して課題に取り組む姿勢を有する人
- 5) リハビリテーションの専門知識や技能を活かして、医療・福祉・行政分野をはじめ、教育・研究機関や国内外の地域、社会に貢献する志を有する人

リハビリテーション学科先進理学療法コースの3方針

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

リハビリテーション学科先進理学療法コースでは、保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す5つの力を身につけた者に『学士（理学療法学）』の学位を授与する。

1) 自律力

理学療法士として、生命の尊さと人の尊厳を理解し、高い道徳心のもと、主体性を持って幅広い教養と科学知識・技能を習得し、自ら省察・評価・判断して行動する能力を身につけている。

2) 協調力

理学療法士として、多様な人々と分け隔てなく適切なコミュニケーションを図り、専門職だけでなく患者および家族ともチームとして連携・協働しながら自身の役割や責任を全うし、対象者を支援する能力を身につけている。

3) 課題解決力

理学療法士として、基本的な専門知識・国内外の科学情報や技能を活用しながら、対象者に生じた事象とその原因を科学的に整理・分析し、具体的な解決策を立案・実施する思考能力、あわせて未来創造の視点でより良い治療を探求する能力を身につけている。

4) 実践力

理学療法士として、対象者を全人的に理解し、適切な評価および臨床推論のもと、適確かつ安全に介入する能力を身につけている。

5) 地域・社会貢献力

理学療法士として、対象者が居住する地域での持続的な生活・活動を可能にするため、先進医療から地域医療、福祉、保健衛生、産業保健などにおける専門的役割を学修し、関わる環境に合わせて地域・社会に貢献する能力を身につけている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健衛生学部およびリハビリテーション学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科 先進理学療法コースのディプロマ・ポリシーに示した5つの能力を身につけるために、本コースでは段階的・体系的な教育課程を編成する。また、以下に示す学修方法・課程や学修成果の評価により、本学の建学の精神と教育理念を踏まえて、学びを進め、深めていく。

1. 教育課程編成

- 1) 理学療法士の資格課程を設置し、専門的な学びの要求に応え、知識・技能、医療の質向上につながるコミュニケーション、接遇など専門家に必要な能力を養成する。
- 2) カリキュラムには「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」を設置し、各科目を系統的に連結させ、体系的かつ網羅的に理学療法学分野を学修できるようにする。
- 3) 系統的・体系的なカリキュラムであることを示すための「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を作成し、学修過程の整合性を示す。
- 4) 講義、演習、実習では理学療法士としての専門性を身につけるため、少人数学修（SGL）、問題解決型学修（PBL）、チーム基盤型学修（TBL）などのアクティビティングを活用し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、リーダーシップ、主体性、協調性などの観点から養成する。
- 5) オンラインによる授業資料配信やポータルサイトといった多様な情報通信技術（ICT）を日常的に用いることで、ICTを適切に利活用できる能力を養成する。
- 6) 臨床実習では、高度な最先端医療を実施する教育病院や、地域に根ざした医療機関、福祉施設、地域包括ケア中核センターを多様な学びの場とし、理学療法士に必要な専門知識・技能を養成する。

2. 学修方法・学修過程

1) 初年次教育

1年次には、基礎分野の科目だけでなく、全学部合同でチームワークやコミュニケーションスキルを学ぶ大学独自のカリキュラムであるアセンブリ教育を行う。全学部学生と教員が共に活動することを通して、専門職連携の基盤づくりを行う。基礎臨床見学実習では、臨床現場で理学療法士の働きを見学し、リハビリテーションにおける理学療法士の役割への理解の向上を図る。

2) 専門教育

教育課程は基礎分野で科学的思考の基礎、専門基礎分野で人体の構造と機能および疾病と障害の成り立ちなどを学ぶ。その上で専門分野では、理学療法士に必要な高い専門性を得るための科目を学び、身体障害、発達障害、老年期などで理学療法を必要とする対

象者を理解する視点を獲得する。また、対象者の基本動作能力の改善・維持を図るための手段として、運動療法や物理療法を実習や演習を通して学修する。

また、臨床志向的なりハビリテーション教育/学習システム COSPIRE (the Clinical-Oriented System for Progression & Innovation of Rehabilitation Education) を導入し、理学療法の臨床場面と直結した学修環境の中で、良質な知識、技能、態度の獲得を図る。

客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を導入し、標準的な理学療法を模擬的に実施し、評価を受けることでスキルアップを図る。

3) 学生・学修支援

理学療法士国家資格取得にむけた学修のため、SGL による個別指導の体制を整えている。また全学年を通して、学修成果可視化システム等により、自己の学修成果を把握することで、具体的な学修の目標と計画を立てて、達成と成長を実感できるようにする。

3. 学修成果の評価

- 1) 定期試験・レポート・実技試験等によって、学修成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学修成果は、講義・演習・実習科目および臨地実習を多様な学修評価方法を用いて単位を厳格に認定し、修得単位数から成績評価値 (GPA) を算出し、学士の質保証を担保する。
- 3) 学修成果の可視化および教育の質保証を図るために、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの各項目について「学修成果の評価 (アセスメントプラン)」を踏まえて達成度を示す。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

保健衛生学部およびリハビリテーション学科のアドミッション・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科 先進理学療法コースでは以下のような学生を入学者として求める。

求める学生像

- 1) 理学療法士を志す明確な目的意識を有する人
- 2) 入学後の学修に必要な基礎学力を備え、理学療法学およびリハビリテーション関連分野（身体障害、発達障害、老年期）に高い関心を有する人
- 3) 思いやりと誠実さをもって、他者に興味をもち理解する姿勢を有する人
- 4) 自身の行動に主体性と責任をもち、他者と協働して課題に取り組む姿勢を有する人
- 5) 理学療法の専門知識や技能を活かして、医療・福祉・行政分野を始め、教育・研究機関や国内外の地域、社会に貢献する志を有する人

リハビリテーション学科先進作業療法コースの3方針

1. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

リハビリテーション学科先進作業療法コースでは、保健衛生学部のディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す5つの力を身につけた者に『学士（作業療法学）』学位を授与する。

1) 自律力

作業療法士として、生命の尊さを重んじ、豊かな人間性と倫理観のもと、医学知識と活動・行動を科学的に統合した専門知識・技能を基盤に、自ら省察・評価・判断して行動する能力を身につけている。

2) 協調力

作業療法士として、様々な専門職や患者および家族との適切なコミュニケーションによって強い信頼関係を構築し、チームとして連携・協働しながら対象者の状況に的確に対応した支援を提供する能力を身につけている。

3) 課題解決力

作業療法士として、作業療法学分野に関する基本的な専門知識および国内外の科学情報を活用し、疾病によって生じた対象者の心身機能および生活・社会活動における課題の解決に向けて、未来志向的な創造性をもって探究し、具体的な解決策を立案・実施する能力を身につけている。

4) 実践力

作業療法士として、対象者にとって重要となる作業を多面的かつ包括的に理解し、適切な臨床推論のもと、適確かつ安全に介入する能力を身につけている。

5) 地域・社会貢献力

作業療法士として、対象者が居住する地域での持続的な生活・活動を可能にするため、先進医療から地域医療、福祉、保健衛生などにおける専門的役割を学修し、社会の多様性に対応する能力を身につけている。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健衛生学部およびリハビリテーション学科のカリキュラム・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科先進作業療法コースのディプロマ・ポリシーに示した5つの能力を身につけるために、本コースでは段階的・体系的な教育課程を編成する。また、以下に示す学修方法・課程や学修成果の評価により、本学の建学の精神と教育理念を踏まえて、学びを進め、深めていく。

1. 教育課程編成

- 1) 作業療法士の資格課程を設置し、専門的な学びの要求に応え、知識・技能・コミュニケーション能力など専門家に必要な能力を養成する。
- 2) カリキュラムには「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」を設置し、各科目を系統的に連結させ、体系的かつ網羅的に作業療法学分野を学修できるようにする。
- 3) 系統的・体系的なカリキュラムであることを示すための「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を作成し、学修過程の整合性を示す。
- 4) 講義、演習、実習では作業療法士としての専門性を身につけるため、多様な学びの連携を重視し、少人数学修(SGL)、問題解決型学修(PBL)などのアクティブラーニングを効果的に活用する。
- 5) オンラインによる授業資料配信やポータルサイトといった多様な情報通信技術（ICT）を日常的に用いることで、ICTを適切に利活用できる能力を養成する。
- 6) 臨床実習では、高度な最先端医療を実施する教育病院や、地域に根ざした医療機関、福祉施設、地域包括ケア中核センターを多様な学びの場とし、作業療法士に必要な専門知識・技能を養成する。

2. 学修方法・学修過程

1) 初年次教育

1年次には、基礎分野の科目だけでなく、全学部合同でチームワークやコミュニケーションスキルを学ぶ大学独自のカリキュラムであるアセンブリ教育を行う。全学部学生と教員が共に活動することを通して、専門職連携の基盤づくりを行う。基礎臨床見学実習では作業療法士の実際の働きを見学し、リハビリテーションにおける作業療法士の役割への理解の向上を図る。

2) 専門教育

教育課程は基礎分野で科学的思考の基礎、専門基礎分野で人体の構造と機能および疾病と障害の成り立ちなどを学ぶ。その上で専門分野では、身体障害、精神障害、発達障害、老年期の分野において、生活を営む個人として作業療法を必要とする対象者を理解する視点を獲得する。また、対象者個人の特性や生活に基づき、認知機能や精神機能、

身体機能の改善・維持のための手段について実習や演習を通して学修する。

また、臨床志向的なリハビリテーション教育/学習システム COSPIRE (the Clinical-Oriented System for Progression & Innovation of Rehabilitation Education) を導入し、作業療法の臨床場面と直結した学修環境の中で、良質な知識、技能、態度の獲得を図る。

客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を導入し、標準的な作業療法を模擬的に実施し、評価を受けることでスキルアップを図る。

3) 学生・学修支援

作業療法士国家資格取得にむけた学修のため、SGL による個別指導の体制を整えている。また全学年を通して、学修成果可視化システム等により、自己の学修成果を把握することで、具体的な学修の目標と計画を立て、達成と成長を実感できるようにする。

3. 学修成果の評価

- 1) 定期試験・レポート・実技試験等によって、学修成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学修成果は、講義・演習・実習科目および臨地実習を多様な学修評価方法を用いて単位を厳格に認定し、修得単位数から成績評価値 (GPA) を算出し、学士の質保証を担保する。
- 3) 学修成果の可視化および教育の質保証を図るために、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの各項目について「学修成果の評価 (アセスメントプラン)」を踏まえて達成度を示す。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

保健衛生学部およびリハビリテーション学科のアドミッション・ポリシーに基づき、リハビリテーション学科先進作業療法コースでは以下のような学生を入学者として求める。

求める学生像

- 1) 作業療法士を志す明確な目的意識を有する人
- 2) 入学後の学修に必要な基礎学力を備え、作業療法学およびリハビリテーション関連分野（身体障害、精神障害、発達障害、老年期）に高い関心を有する人
- 3) 思いやりと誠実さをもって、他者に興味をもち理解する姿勢を有する人
- 4) 自身の行動に主体性と責任をもち、他者と協働して課題に取り組む姿勢を有する人
- 5) 作業療法の専門知識や技能を活かして、医療・福祉・行政分野を始め、教育・研究機関や国内外の地域、社会に貢献する志を有する人

リハビリテーション学科の教育理念・教育目標について

1. 教育理念

リハビリテーション学科は、「獨創一理」の精神のもと、リハビリテーション医学・医療の実践の要であり、医学的かつ行動科学的に総合された、臨床的学問としての理学療法・作業療法を尊重し、その継承と発展を教育研究上の理念とします。最高水準のリハビリテーション医学・医療の創生に向けた、科学的かつ利他的で有能なリハビリテーション専門家の行為者養成を目指します。

2. 教育目標

リハビリテーション学科は、本学の建学の理念と保健衛生学部の教育理念を踏まえ、以下のような目標を掲げ、リハビリテーションの専門職の育成を目指します。

- 1) 理学療法士および作業療法士として、優れた臨床科学的思考を行いうる知識を持ち、利他性を基盤とした態度を身につけ、優れた臨床技術を備えた行為者たるリハビリテーション専門家を育成します。
- 2) リハビリテーション医学に即した理学療法学および作業療法学を、臨床に密着した科学的根拠に基づく学問・技術として捉え、研究と教育と共に優れた臨床科学的思考を行いうる専門的素養を備えた人材を育成します。
- 3) 科学技術や医学の進歩に対応し、課題を発見して解決する探究心を養い、リハビリテーション学の向上に寄与できる能力を育成します。
- 4) 医療に従事する者として必要な優れたコミュニケーション能力および責任感と協調性を養い、チーム医療に貢献できる人材を育成します。

リハビリテーション学科 学科長

科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に、学問分野や難易度などを表す番号を付し分類することで、教育課程の体系を分かりやすく明示する仕組みのことです。

2. 目的

- ・学問分野や授業の難易度、学修の段階が判りやすくなり、学生が将来の目標や関心をもつて科目選択をすることで、主体的に履修計画を立てることができます。
- ・他大学との比較・連携につながる

他学部や他大学の教育課程の体系の理解にも繋がり、科目の学問分野や位置づけを知ることで、履修する目的を明確に把握することができます。それにより、海外大学との連携や単位互換の一助・留学後のギャップの解消などグローバル的な効果も期待されます。

3. 科目コードの構成

S C B C 2 15
① ② ③ ④ ⑤ ⑥

ex 医療科学部－医療検査プログラム共通科目－2022年度入学者から－専門分野－中級レベルの科目－科目識別コード

① 学部コード

表記コード：C・M・S・H 文字数制限：1文字

その授業科目の開設に最終的に責任を持つ組織名（学部）もしくは、その授業科目が全学の共通教育科目であるかどうかを示す

② 学科・専攻コード

表記コード：A～Z 文字数制限：1文字

その授業科目が置かれている教育単位を示すもの。このコードは、カリキュラム上の責任組織や教育組織（学科、プログラム、専攻）を示す。

③ カリキュラム年度コード

表記コード：A～C 文字数制限：1 文字
教育課程がどの入学年度に対応するかを示す。

④ 分野・領域コード

表記コード：A～E 文字数制限：1 文字
カリキュラム上の科目分野や科目領域を示す。

⑤ 水準コード

表記コード：0～9 文字数制限：1 行
授業科目の難易度を示す。0～9までの10のレベルに分けて示す。

⑥ 科目識別コード

表記コード：00～99 文字数制限：2 行
授業科目を識別するもの。00～99までの数字で表されている。数字の大きさが、その授業の難易度を示すものではない。

4. コード一覧

① 学部・研究科コード

組織・教育プログラム名	コード
学部共通科目	C
医学部	M
医療科学部	S
保健衛生学部	H

② 学科・専攻コード

学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
学部共通科目	大学共通科目	W
医学部	医学科	M
医療科学部	学部内共通科目	G
	医療検査学科 プログラム共通科目	C
	医療検査学科 臨床検査学プログラム	T
	医療検査学科 臨床工学プログラム	E
	放射線学科	R
保健衛生学部	学部内共通科目	G
	看護学科	N
	看護学科 保健師	H

学部・研究科	学科・課程・専攻・科目区分	コード
保健衛生学部	リハビリテーション学科	A
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	P
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	0

③ カリキュラム年度コード

教育課程該当年度	コード
2021 年度入学者まで	A
2022 年度入学者から	B
2024 年度入学者から	C

④ 分野・領域コード

分野・区分	コード
基礎分野	A
専門基礎分野	B
専門分野	C
自由科目	D
未分類	E

⑤ 水準コード

コード	定義	内容
0	水準で分類のできない科目	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学前に修得すべき内容を扱う科目 卒業要件外の授業科目
1	学部前半の入門的な科目	<ul style="list-style-type: none"> 初年次の必修科目を含む、基礎的な教育科目・共通専門基礎科目 各学部等で、その専門領域を初めて学ぶ学生のための基礎的な専門科目
2	学部前半の基盤的な科目	<ul style="list-style-type: none"> 展開的内容を扱う科目 基礎の発展・応用レベルの内容を扱う専門科目
3	学部後半の基盤的な科目	<ul style="list-style-type: none"> より高度な内容を扱う科目 実践的・専門的に高度な内容を扱う専門科目（臨床実習を含む）
4	学部後半の発展的な科目	<ul style="list-style-type: none"> 学士課程で学習する最終段階の水準の科目 応用実習、卒業研究など発展的な専門科目

CAP 制について

学生が1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を定め、学修すべき授業科目を精選することで各授業科目について十分な学修時間(1単位当たり必要な45時間)を確保し単位の実質化を図ることを目的とします。

上限単位は、各学科学年に定める教育課程表の進級および卒業に関わる最低単位数に加えて5単位までとします(ただし、自由科目を除き、プラス5単位ないものに関しては最高単位数を上限とする。看護学科は別に示す)。これらを超えて履修登録することはできませんので注意してください。また、成績優秀者(前年度 GPA3.0 以上)へは成績状況に応じ、年間上限単位を超えて緩和します。成績不振者(前年度 GPA1.2 未満)へは学修支援を行い、進級に必要な最低単位数に留める厳格化の措置をとります(2018 年度入学者から適用)。

GPAについて

1. GPA とは

Grade Point Average (グレード・ポイント・アベレージ) の略称であり、成績評価を GP (グレード・ポイント) で置き換え、単位数を掛けたものの総和を総履修登録単位数で割った値です。数値が高いほど良い成績を得ていると言えます。

2. 目的

GPA の活用により、学生の学習意欲を高めるとともに、本学における教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的とします。

3. 利用方法

- ・ クラス担任による修学指導に利用します。
- ・ 年次終了時に当該年度の GPA が 1.0 未満であり、かつ総授業コマ数の 1/3 を超えて欠席している場合は、退学勧告を行うことがある。

4. 評価および GPA

成績の評語、および GP は、次表のとおりとします。

評語	GP (評価点)	100 点満点での評点範囲	評価基準
S	4	100 ～ 90 点	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
A	3	89 ～ 80 点	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
B	2	79 ～ 70 点	到達目標を達成している
C	1	69 ～ 60 点	到達目標を最低限達成している
D	0	60 点未満	到達目標を達成していない
F	0	無資格科目	科目授業時間数の 3 分の 1 を超えて欠席した科目
N	—	認定科目	他大学等で修得した単位を本学において修得したものとみなすと判断された科目

5. GPA の算出式

$$GPA = \frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4) + (A \text{ の修得単位数} \times 3) + (B \text{ の修得単位数} \times 2) + (C \text{ の修得単位数} \times 1) + (D, F \text{ の単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数} \text{ (D, F の単位数も含む)}}$$

- ・小数点第2位までの数値で表記
- ・小数点第3位は四捨五入

6. GPA に含まれない科目

- ・卒業要件に含まれない自由科目
- ・本学において修得したものとみなすと判断された認定科目

リハビリテーション学科・教育課程

2024年度の入学生(1学年)には、2024年度の教育課程に従った授業が行われます。

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進理学療法コース 教育課程 そのー1

系列分野	授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
基礎分野	生物学	1		1								必修3単位 選択1単位	必修3単位 選択1単位
	統計学	1		1									
	物理学	1		1									
	化学		1	1									
	数学		1	1									
	心理学	1		1								必修2単位 選択1単位	必修2単位 選択1単位
	生命倫理学		1	1									
	コミュニケーション論	1		1									
	教育学		1	1								必修7単位 選択1単位 ただし、選択科目のうち語学1単位を選択必修とする。	必修7単位 選択1単位 ただし、選択科目のうち語学1単位を選択必修とする。
	スポーツ・健康科学		1	1									
	英語 1	2		2									
	英語 2	2		2									
	医学英語	1			1								
	ポルトガル語		1	1									
	中国語		1	1									
	レクリエーション論	1			1								
	初年次教育基礎演習	1		1								15単位	15単位
合計		19		19									

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進理学療法コース 教育課程 その-2

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 1	1	1		1								必修15単位	必修15単位
	解剖学 2	1		1										
	解剖学実習	1						1						
	機能解剖学	1				1								
	機能解剖学演習	1				1								
	応用解剖学実習		1									1		
	運動生理学	1				1								
	神経解剖学	1		1										
	生理学 1	1	1		1									
	生理学 2	1				1								
	生理学実習	1				1								
	運動学 1	1	1		1									
	運動学 2	1				1								
	運動学演習	1					1							
	人間発達学	1				1								
	病理学	1				1								
小計			16		13		2				1		15単位	15単位
基礎分野	臨床心理学	1			1								必修15単位	必修15単位
	医学通論 ブラタナス - 医療と社会	1			1									
	一般臨床医学	1			1									
	内科学	1				1								
	整形外科学	1				1								
	神経内科学	1				1								
	精神医学	1				1								
	小児科学	1				1								
	老年医学	1			1									
	公衆衛生学	1				1								
	救急医学	1				1								
	スポーツ医学	1		1										
	リハビリテーション情報工学	1				1								
	基礎情報処理学	1		1										
	医用情報処理学		1		1									
	コミュニケーション障害学		1			1								
	摂食・嚥下障害学	1				1								
小計			17		7		10						15単位	15単位
保健医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション医学概論	1			1								必修5単位	必修5単位
	リハビリテーション評価概論	1				1								
	研究概論	1				1								
	社会福祉学	1		1										
	社会保障制度論	1			1									
小計			5		3		2						5単位	5単位
合計			38		23		14				1		35単位	35単位

(注) 基礎分野・専門基礎分野の科目については、先進作業療法コースと共通である。

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進理学療法コース 教育課程 その－3

先進理学療法コース科目

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
基礎理学療法学		理学療法概論	1					1					必修6単位	
		臨床運動学	1						1					
		病態運動学	1						1					
		表面解剖学(理学療法)	1							1				
		機能障害学	1					1						
		運動学習理論	1				1							
小計			6				4		2				6単位	
理学療法	理学療法	理学療法教育学概論	1						1				必修2単位	
		理学療法管理学概論	1							1				
小計			2						2				2単位	
専門分野	理学療法評価学	検査・測定論1(理学療法)	1					1					必修6単位	
		検査・測定論演習1(理学療法)	1						1					
		検査・測定論2(理学療法)	1					1						
		検査・測定論演習2(理学療法)	1						1					
		理学療法評価演習	1						1					
		客観的臨床能力演習1	1				1							
小計			6				5		1				6単位	
専門分野	理学療法治療学	義肢学	1				1						必修21単位	
		装具学	1					1						
		義肢・装具学実習	1						1					
		日常生活活動学(理学療法)	1						1					
		日常生活活動学演習(理学療法)	1						1					
		運動療法学	1				1							
		運動療法学演習	1							1				
		理学療法治療学1-中枢1	1							1				
		理学療法治療学2-中枢2	1							1				
		理学療法治療学3-中枢3	1					1						
		理学療法治療学4-整形1	1						1					
		理学療法治療学5-整形2	1						1					
		理学療法治療学6-スポーツ	1						1					
		理学療法治療学7-呼吸	1							1				
		理学療法治療学8-内部障害	1						1					
		理学療法治療学9-小児・精神	1								1			
		理学療法治療学10-認知症・がん	1								1			
小計			21				12		9				21単位	

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進理学療法コース 教育課程 その-4

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業	
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法学	1						1				必修3単位		
		職業関連活動学	1						1						
		地域リハビリテーション学(理学療法)	1						1						
	小計		3						3				3単位		
	臨床実習	基礎臨床見学実習	1			1							必修36単位		
		初期体験実習	4					4							
		臨床実習(理学療法)	18						18						
		応用臨地実習(理学療法)	12								12				
		地域リハビリテーション学実習(理学療法)	1								1				
	小計		36		1		4		18		13		36単位		
	特論	理学療法学特論1	1								1		必修2単位		
		理学療法学特論2	1								1				
	小計		2								2		2単位		
専門分野	アセントブリ	アセントブリI (Interprofessional Education I)	1			1							必修3単位		
		アセントブリII (Interprofessional Education II)	1					1							
		アセントブリIII (Interprofessional Education III)	1						1						
		アセントブリIV (Interprofessional Education IV)		1								1			
	小計		4		1		1		1		1		3単位		
	臨床研究	臨床研究	1								1			必修1単位	
	小計		1								1		1単位		
	合計		81		2		26		36		17		80単位		
	先進理学療法コース 総合合計		138		44		40		36		18		130単位		

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進作業療法コース 教育課程 そのー1

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
基礎分野	科学的思考の基盤	生物学	1		1								必修3単位	必修3単位
		統計学	1		1								選択1単位	選択1単位
		物理学	1		1									
		化学			1	1								
		数学			1	1								
		心理学	1		1								必修2単位	必修2単位
		生命倫理学			1	1							選択1単位	選択1単位
	人間と生活社会の理解	コミュニケーション論	1		1									
		教育学			1	1								
		スポーツ・健康科学			1	1							必修7単位	必修7単位
		英語1	2			2							選択1単位	選択1単位
		英語2	2			2							ただし、選択科目のうち語学1単位を選択必修とする。	ただし、選択科目のうち語学1単位を選択必修とする。
		医学英語	1				1							
		ポルトガル語			1	1								
合計			19		19								15単位	15単位

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進作業療法コース 教育課程 その-2

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 1	1	1		1								必修15単位	必修15単位
	解剖学 2	1		1										
	解剖学実習	1						1						
	機能解剖学	1				1								
	機能解剖学演習	1				1								
	応用解剖学実習		1									1		
	運動生理学	1				1								
	神経解剖学	1		1										
	生理学 1	1	1		1									
	生理学 2	1				1								
	生理学実習	1				1								
	運動学 1	1	1		1									
	運動学 2	1				1								
	運動学演習	1					1							
	人間発達学	1				1								
	病理学	1				1								
小計			16		13		2				1		15単位	15単位
基礎分野	臨床心理学	1			1								必修15単位	必修15単位
	医学通論 ブラタナス - 医療と社会	1			1									
	一般臨床医学	1			1									
	内科	1				1								
	整形外科学	1				1								
	神経内科学	1				1								
	精神医学	1				1								
	小児科学	1				1								
	老年医学	1			1									
	公衆衛生学	1				1								
	救急医学	1				1								
	スポーツ医学	1		1										
	リハビリテーション情報工学	1				1								
	基礎情報処理学	1		1										
	医用情報処理学		1		1									
	コミュニケーション障害学		1			1								
	摂食・嚥下障害学	1				1								
小計			17		7		10						15単位	15単位
保健医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション医学概論	1			1								必修5単位	必修5単位
	リハビリテーション評価概論	1				1								
	研究概論	1				1								
	社会福祉学	1		1										
	社会保障制度論	1			1									
	小計	5		3		2							5単位	5単位
合計			38		23		14				1		35単位	35単位

(注) 基礎分野・専門基礎分野の科目については、先進理学療法コースと共通である。

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進作業療法コース 教育課程 その－3

先進作業療法コース科目

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
基礎作業療法学	基礎作業療法学	作業療法概論	1					1					必修5単位	
		運動学習理論	1				1							
		表面解剖学(作業療法)	1					1						
		基礎作業学	1					1						
		基礎作業学演習	1					1						
小計			5				5						5単位	
理学療法管	作業療法管	作業療法教育学概論	1						1				必修2単位	
		作業療法管理学概論	1						1					
	小計		2					2					2単位	
専門分野	作業療法評価学	検査・測定論1(作業療法)	1					1					必修7単位	
		検査・測定論演習1(作業療法)	1					1						
		検査・測定論2(作業療法)	1					1						
		検査・測定論演習2(作業療法)	1					1						
		検査・測定論3(作業療法)	1					1						
		作業療法評価演習	1						1					
		客観的臨床能力演習1	1				1							
小計			7				6		1				7単位	
専門分野	作業療法治療学	義肢学	1				1						必修19単位	
		日常生活活動学(作業療法)	1					1						
		日常生活活動学演習(作業療法)	1					1						
		運動療法学	1				1							
		物理療法学	1					1						
		作業療法治療学1-中枢1	1					1						
		作業療法治療学2-中枢2	1					1						
		作業療法治療学3-中枢3	1						1					
		作業療法治療学4-中枢4	1						1					
		作業療法治療学5-整形1	1					1						
		作業療法治療学6-整形2	1						1					
		作業療法治療学7-内部障害	1					1						
		作業療法治療学8-精神障害	1						1					
		作業療法治療学9-小児	1						1					
		作業療法治療学演習1-スプリント	1						1					
		作業療法治療学演習2-作業活動	1						1					
		作業療法治療学演習3-臨床推論	1						1					
小計			19				10		9				19単位	

保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進作業療法コース 教育課程 その-4

系列分野		授業科目	単位数		1年		2年		3年		4年		卒業要件	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	先進理学	先進作業
専門分野	地域法医学作業	地域作業療法学 1 - 高齢者・身障	1						1				必修4単位	
		地域作業療法学 2 - 精神・児童	1						1					
		職業関連活動学	1						1					
		地域リハビリテーション学(作業療法)	1						1					
	小計		4						4				4単位	
	臨床実習	基礎臨床見学実習	1		1								必修36単位	
		初期体験実習	4				4							
		臨床実習(作業療法)	18						18					
		応用臨地実習(作業療法)	12							12				
		地域リハビリテーション学実習(作業療法)	1							1				
	小計		36		1		4		18		13		36単位	
	特論	作業療法学特論 1	1								1		必修2単位	
		作業療法学特論 2	1								1			
	小計		2						2				2単位	
専門分野	アセントブリード	アセントブリード I (Interprofessional Education I)	1		1								必修3単位	
		アセントブリード II (Interprofessional Education II)	1				1							
		アセントブリード III (Interprofessional Education III)	1						1					
		アセントブリード IV (Interprofessional Education IV)		1							1			
	小計		4		1		1		1		1		3単位	
	臨床研究	臨床研究	1							1			必修1単位	
	小計		1						1				1単位	
	合計		80		2		26		35		17		79単位	
	先進作業療法コース 総合計			137		44		40		35		18		129単位

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

保健衛生学部 自由科目 その一 1

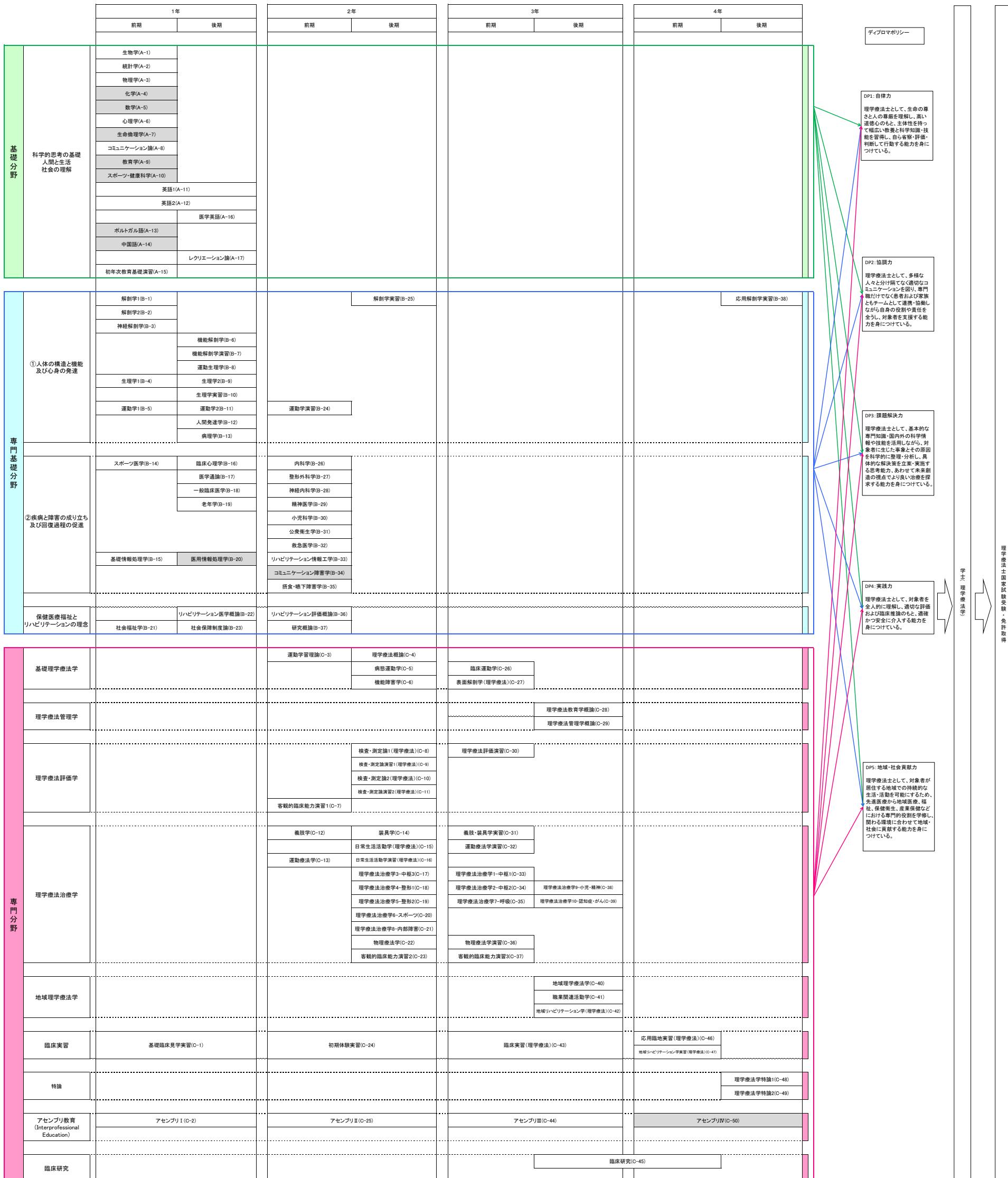
系列分野	授業科目	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
自由科目	異文化看護概論	2	2		2		2		2		※
	インターンシップ	2	2		2		2		2		※
	日本語 I	1	1		1		1		1		※
	日本語 II	1		1		1		1		1	※
	国際医療演習 I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	※
	国際医療演習 II	1	1	1	1	1	1	1	1	1	※

※：いずれかの学年で履修する。

(注) 必要がある場合、授業科目の配置は教授会の議を経て変更することができる。

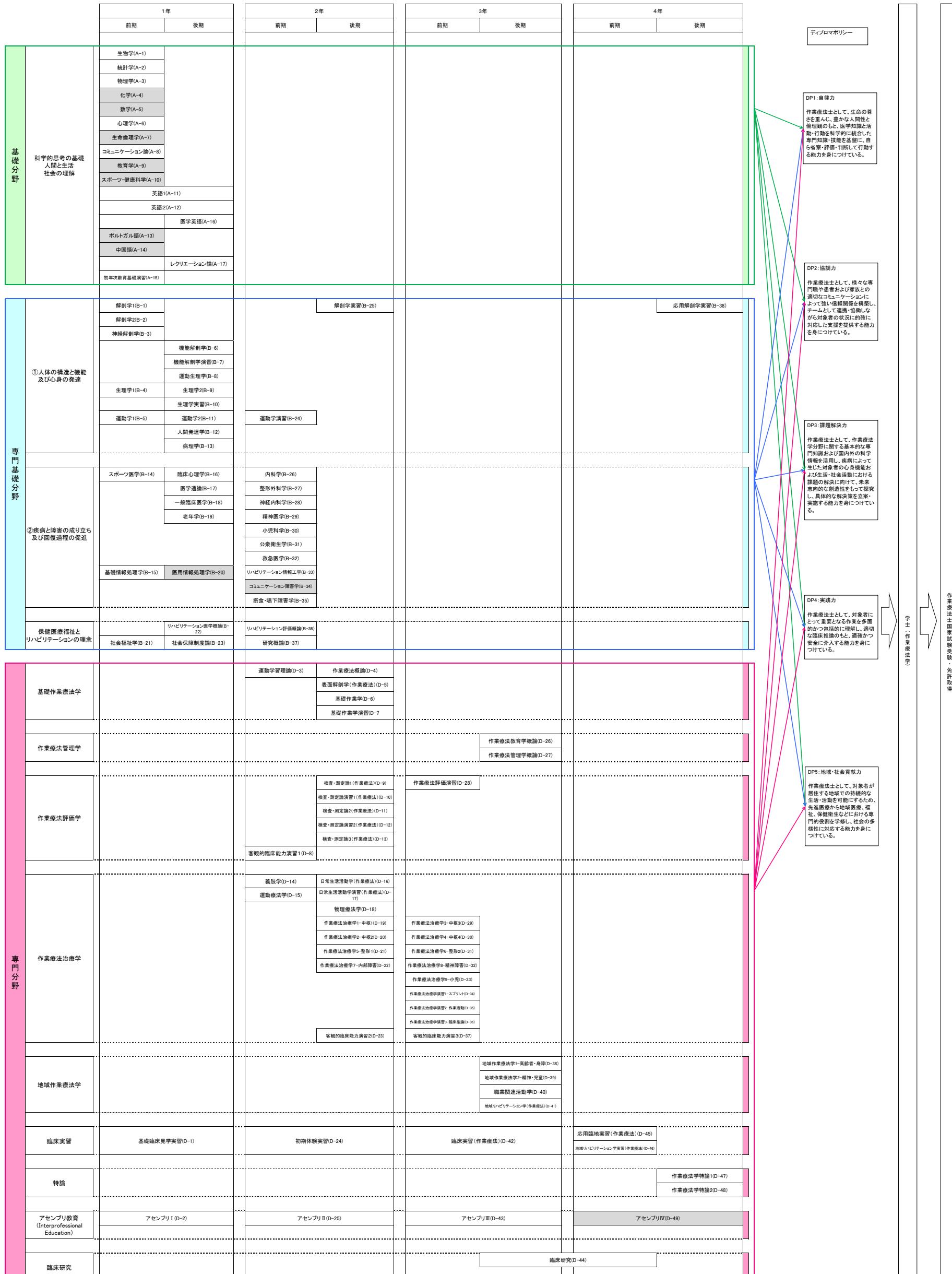
(注) 自由科目の修得単位は卒業資格必要単位に含めない。

■ 必須科目
■ 選択科目



保健衛生学部 リハビリテーション学科 先進作業療法コース 履修系統図

必須科目
選択科目



※自由科目「異文化看護概論」、「インターインシップ」、「日本語Ⅰ、Ⅱ」、「国際医療演習Ⅰ、Ⅱ」は教育課程表を参照

シラバスを読むにあたって

1. シラバスの構成について

シラバスは授業科目の学修内容を示した学修のためのガイドである。

授業科目ごとに学修内容の概要や学修により学生に到達して欲しい目標が示され、その到達度をどのような方法で、どのように評価するかを示している。評価結果についてどのように学生へフィードバックするかも示される。授業は複数回に渡って実施されるので、毎回どのような進捗で授業するか、さらに、講義、演習、実習など授業形態や具体的な実施手法(グループワーク、アクティブラーニングなど)も示している。授業で使用する教科書や参考書、受講するにあたっての注意事項も示されるので、事前に熟読のうえ準備を整えること。

2. シラバスの提供方法

医療科学部・保健衛生学部のシラバスは Web シラバス (World Wide Web を利用した Web ページで提供されるシラバス) により提供される。学生諸君は、パソコン、スマートフォンなどの Web ブラウザにて下記の URI にアクセスし、閲覧すること。

- リハビリテーション学科 1年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/46/gakunen/1/>
- リハビリテーション学科理学療法専攻 2年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/44/gakunen/2/>
- リハビリテーション学科理学療法専攻 3年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/44/gakunen/3/>
- リハビリテーション学科理学療法専攻 4年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/44/gakunen/4/>
- リハビリテーション学科作業療法専攻 2年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/45/gakunen/2/>
- リハビリテーション学科作業療法専攻 3年生シラバス

- <https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/45/gakunen/3/>
- リハビリテーション学科作業療法専攻 4年生シラバス
<https://syllabus.fujita-hu.ac.jp/fjt/auth/outputsyllabusmed/nendo/2024/gakubu/130/gakka/45/gakunen/4/>

Web シラバスの URI は、「医療科学部・保健衛生学部 学生ポータル」や「藤田学園 Web ページの『在学生の方』ページ」にもリンクを掲載している。

- 医療科学部・保健衛生学部 学生ポータル
<https://www.shs.fujita-hu.ac.jp/>
- 藤田学園 Web ページ 「在学生の方」ページ
<https://www.fujita-hu.ac.jp/students/>

3. シラバスの各項目について

シラバスに記載される項目について説明する。

● 科目名

Web シラバスの上位中央に表示される。

1授業科目のシラバスは1ページにまとめて表示される。

必修・選択の別、単位数、開講時期の別(全期前期・後期)も掲載している。

● 科目概要

授業科目の概要を説明する。授業科目で何を学ぶのか、その意義、関連する科目について担当教員から学生へのメッセージとして記載してある。

また、医療機関や企業などで実務経験のある教員が担当する科目の場合、その旨を記載している。

● 到達目標

授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を記載してある。到達目標は複数の項目に分けて記載しており、それぞれの到達目標を意識して受講すること。

また、授業を終えた後には、この到達目標に対する到達度の自己評価を行い、学修成果可視化システム(アセスメンター)に入力して、自己の学修状況を管理・分析できるようにしている。

● 評価法

授業科目の成績(評価点)は到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合をどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポートなど)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を記載してある。

複数の教員が評価する場合は、教員間の配分も示す。通年科目では、前期と後期の評価配分を記載する場合もある。

授業科目によっては評価に関する特別な注意点、ルール等が記載される場合があるので留意

すること。

● 基準

到達目標に対してどの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを記載してある。

● フィードバック

評価のために実施した試験やレポートなどの評価結果を履修者へフィードバックする方法について記載してある。定期試験結果に対するフィードバックには、医療科学部・保健衛生学部 e ラーニング (Moodle) を利用する場合がある。

● 教科書

授業で使用する教科書を記載してある。授業に臨む前に必ず購入すること。

● 教材参考書

授業で用いる教材、参考書を記載してある。予習、復習のため、より学修を深めるためには参考書の利用を薦める。

● 連絡先

授業に関する質問や問い合わせ等で電子メールや内線の利用を許可する場合は、電子メールアドレスと内線番号を記載してある。

● 講義形式

授業の実施形態が「講義」、「演習」、「実習」、「実験」、「実技」のうちどれに該当するかを記載してある。授業によっては複数を組み合わせている場合がある。

● 形式内容

授業で用いられる具体的な実施形式を記載している。特にアクティブラーニングを採用する授業では、「TBL」(Team-based Learning)、「PBL」(Problem-based Learning)、「反転授業」、「ディスカッション・ディベート」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」、「ICT 活用」のいずれの実施形式が利用されるかを明記している。具体的な内容については『形式内容説明』の項目を参照すること。

● 事前事後学修時間

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)に必要な時間を見込んでいる。大学設置基準第 21 条において、1 単位の授業科目に必要な全学修時間は 45 時間とされており、大学における 1 時限(1コマ)の授業の学修時間は 2 時間に相当する。よって、大学において授業を受けた時間だけでは 45 時間には達しない場合がある。そのような授業科目の到達目標は、残りの学修時間分を学生自らが授業時間外で事前学修・事後学修することを想定し、設定されている。

● 事前事後学修内容

授業を受ける上で必要とされる事前学修・事後学修(予習・復習等)について、具体的な学修内容や学修の指示を記載している。事前学修・事後学修に医療科学部・保健衛生学部 e ラーニングを利用する場合がある。

履修にあたっては遵守すること。

● 履修上の注意点

授業を受ける上での指示(持参する文房具、ノートに関する指示など)が記載される場合があるので、よく確認すること。

その他には、学修の心構えや私語に関する注意、資格試験に関する事項等、様々な注意点が

記載される。

● **実務経験科目**

医療機関や企業などで実務経験のある教員により授業が実施される授業科目の場合、本項目に「該当」と表示している。

● **形式内容説明**

『形式内容』に示された授業形式について、具体的にどのような方法・内容で授業が実施されるのか概要を説明している。

● **科目責任者**

授業科目の最終的な成績評価の責任者である。

● **担当教員・オフィスアワー**

授業科目を担当する教員と、各教員が授業に関する質問などを受付ける特定の曜日・時間帯・場所を記載してある。設定されたオフィスアワーにて教員に質問する場合は、事前連絡は不要である。事前に連絡が必要な場合は『連絡先』に記載される場合があるので考慮すること。

● **授業日程**

No. 授業回数

開講 授業を実施する月日・曜日・時限 ※予定

種別 講義・演習・実習・実験の別

担当者名 当日の授業を担当する教員名

到達目標 授業のテーマ、授業内容の詳細について記載

使用教室 授業を実施する場所（部屋）

なお、1つの授業科目を複数グループに分けて別日程で実施する場合は、複数の授業日程が記載される。自分がどのグループに該当するかは、担当教員の指示に従うこと。

3. 注意事項

- 授業科目によっては「2. シラバスの各項目について」に示した項目以外に、独自に授業に関する情報が提供される場合がある。
- 「授業日程」の「開講」に掲載される月日・時限はシラバス編集時点の実施予定のため、実際の曜日・時限は変更される場合がある。授業日程変更について必ず掲示板などで確認すること。
- 指定された教科書以外に図書、教材の購入が必要な場合がある。担当教員の指示に従うこと。

